

動画配信

3

人口減少が続く中山間地の移住者増加策の検討 ～ 大川生活ガイドブック作成と復興支援 ～

※本事業は令和4年度 しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業の採択を受けて実施しました。

事業担当者

経営学部経営学科 准教授 山田雅敏 (代表)、助教 酒井春花

経営学部経営学科：小野真吾、佐野功汰、西貝瑞稀、佐野由奈、加藤遥 (5名)

目的・概要

事業の背景として、静岡市では人口ビジョンの総合戦略を掲げ人口減少対策を推進した結果、減少速度の緩和が認められるなど対策の効果が認められた。しかし一方で、旧安倍6村をみると過去8年間で人口の約25%が失われている状況にあり、著しい人口減少が大きな社会問題となっている。そのため、これまでの取り組みに加えて、より積極的に課題解決に取り組むことが求められている。

そこで本研究は、①暮らしの充実を目的に大川地区に焦点を当て、同地区の調査により生活ガイドブックを制作、②台風15号の復興支援とオクシズ卓球イベントのボランティア活動、の2点を主たる目的とした。意義として、葵区 Move To Okushizu の戦略の「住んでもらう(移住人口増加)」と「住み続けてもらう(定住人口増加)」の向上が期待される。

事業成果

成果として、インターネットを利用してアンケート調査を実施し、得られたデータから大川生活ガイドブックを制作した。また、台風15号復興支援やオクシズ卓球イベントのボランティアに参加した。これらの地域貢献活動は、新聞記事や本学ホームページに掲載されるなど幅広く情報発信がなされた。



学生による現地調査



オクシズ卓球イベントに参加



静岡新聞 2022年11月17日掲載 (掲載の許諾申請済)



制作した大川生活ガイドブック